

令和5年度 建築士定期講習テキスト 訂正表

本テキストv-41頁「表4 想定荷重例」において、記載内容に誤りがありましたので、下表のとおり訂正します。また、下表作成において参照したデータの最新版（令和5年10月時点）に変更があった箇所もあわせてお知らせします。

なお、訂正箇所は、黄色網掛けにて表示しています。

表4 想定荷重例

		部位の面積当たりの荷重 (N/m ²)	床面積当たりの荷重 (N/m ²)	仕様の構成	荷重の出典など
屋根※ ₁	瓦屋根 (ふき土無)	990	1300	瓦ぶき(640) + 小屋組(200) + 打上げ天井(150)	瓦ぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ⁴
	スレート屋根	740	1000	スレートぶき(440) + 小屋組(200) + さお縁天井(100)	スレートぶき、天井：令第84条 小屋組：耐震診断法の参考資料※ ⁴
	金属板ぶき	500	650	鉄板かわら棒ぶき(200) + 小屋組(200) + さお縁天井(100)	耐震診断法の参考資料※ ⁴
外壁※ ₂	土塗り壁	1000	1170	土塗り壁(上塗りとも、厚6.5mm)(850) + 軸組(150)	土塗り壁：耐震診断法の参考資料※ ⁴ 軸組：令第84条
	モルタル	890	1040	モルタル壁(640) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	モルタル壁、軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ⁴
	サイディング	600	710	サイディング(350) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	サイディング：耐震診断法の参考資料※ ⁴ より試算 軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ⁴
	金属板張	500	590	金属板張(250) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ⁴
	下目板張	350	410	下目板張り(100) + 軸組(150) + せっこうボード(100)	下目板張り + 軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ⁴
内壁※ ₃	せっこうボード	350	200	せっこうボード(両面)(200) + 軸組(150)	軸組：令第84条 せっこうボード：耐震診断法の参考資料※ ⁴
積雪荷重※ ₁	多雪区域 (垂直積雪量1m)	1050	1365	垂直積雪量1mの区域で平均的な積雪時(短期積雪荷重の0.35倍)積雪単位荷重30N/m ² /cm	100cm × 30 N/m ² /cm × 35% × 1.3 (軒の出・屋根勾配の考慮)
	多雪区域 (垂直積雪量2m)	2100	2730	垂直積雪量2mの区域で平均的な積雪時(短期積雪荷重の0.35倍)積雪単位荷重30N/m ² /cm	200cm × 30 N/m ² /cm × 35% × 1.3 (軒の出・屋根勾配の考慮)
太陽光発電※ ₁		200	260	屋根全面設置を想定	国土交通省によるヒアリング調査等より想定
断熱材	天井断熱材	100	100	(GW24K 400mm程度)※ ⁶	国土交通省によるZEH150棟調査より想定
	壁断熱材	70	90※ ⁵	(GW24K 170mm + 胴縁程度)※ ⁶	国土交通省によるZEH150棟調査より想定
開口部	トリプルガラス	400	50※ ⁵	トリプルガラス(250) + サッシ枠(150)	開口率(外壁に対する開口の比率)9%程度 国土交通省によるZEH150棟調査より想定
床		610	610	天井さお縁(100) + 畳敷(340) + 床ばり(170)	令第84条
積載		600	600		令第85条

※₁：軒の出 450mm～600mm、屋根勾配 5寸想定 (×1.3)

※₂：開口率 9%、壁高 2.8m、外周 6m × 16.5m 想定

※₃：内壁存在割合 70%、内壁開口率：60%

※₄：木造住宅の耐震診断と補強方法 (日本建築防災協会)

※₅：開口率 9%、壁高 2.8m、外周 6m × 16.5m 想定

開口率は開口部面積 / 外壁面積

※₆：荷重から想定される仕様の例